

07

FEBRUARY
2025

GRASS NEWSLETTER

I 若手研究者のためのメタ分析入門

2024年11月21日、GRASS客員教授でもある一橋大学経済研究所岩崎一郎教授をお招きして、Global Research Seminar “Introduction to Meta-Analysis for Young Researchers: With Application to the Wage Study in China and Eastern Europe”を開催しました。題名のとおり、本学大学院生のみなさんにメタ分析を学んで頂く企画です。本学持続可能社会創成学環の院生さんや経済学部学生さんも Systematic literature review（体系的文献調査）を修士論文や卒業論文の一部に援用する傾向にあります。社会科学系ではまだまだメタ分析による研究成果を見かける機会は少ないように思います。本セミナーでは、分野を問わず本学の若手研究者のみなさんに実際の援用事例とともにメタ分析の手法を学ぶ機会を提供するために実施しました。経済学部や人文学部の学生さんやも含め、13名の参加者が熱心に講演を聴きました。



写真) 岩崎教授の講演の様子

II 北東アジア学術ネットワーク

中南林業科技大学（長沙市）で2024年11月9日に開催された Digital Economy and Sustainable Development Academic Network に富山大学経済学部馬駿教授、垣田直樹教授、松山淳准教授、GRASSの堀江典生教授、Geetha Mohan 教授、楊潔研究員が富山大学代表として出席しました。中南林業科技大学は、富山大学経済学部と部局間交流協定を結んでおり、韓国江原大学校とともに北東アジア学術ネットワークを形成していることから、その交流の一環として開催されました。



写真) 中南林業科技大学にて記念撮影

III Global Seminar: サステナビリティ学における若者の役割

本学大学院持続可能社会創成学環では、次世代のサステナビリティ実践者を育成することを目的として、主に学部生を対象としたグローバルセミナー「サステナビリティ学における若者の役割」を2024年11月20日に開催しました。GRASS客員教授でもある甲山隆司北海道大学名誉教授と Herath Srikantha 博士（元国連大学サステナビリティ高等研究所 Academic Officer）による基調講演のあと、学部生や学環に所属する留学生によるポスターセッションが開催されました。学部生20名、大学院生8名が出席し、そのうち16名がポスターセッションにてプレゼンテーションを行いました。優秀なプレゼンテーションを行った4名の学部生と3名の学環留学生にベストポスター賞が磯部副学長および和田学環長より授与されました。受賞者は、理学部3年城岸美千花さん、経済学部4年印牧春紀さん、同学部4年大窪春巳さん、同学部3年北村寧々さん、持続可能社会創成学環院生 Farida Ayu さん、同院生 Muhammad Habibullah Galih Tri Aji さん、同院生 Laras Anggita Jati さんでした。



写真) ベストポスター賞受賞者

IV 持続可能社会創成学環スタディ・ツアー

本学大学院持続可能社会創成学環では、毎年、留学生が日本人院生とともに富山のSDGsに関わる地域課題を理解し、ローカルな知恵を学ぶスタディ・ツアーを企画しています。学環教育の関わるGRASSメンバーがその企画立案に関わり、ツアーでのガイドを行いました。今年度のスタディ・ツアーは、2024年12月11日に開催し、氷見で持続可能な漁業と富山湾に由来する富山県の食文化を学ぶことを目的としました。

最初の到着地である道の駅雨晴では、富山湾の景色を眺めました。氷見から富山湾の美しい景観を見るのは初めてという院生も多く、生憎の雨でも院生たちは元気に浜辺に降り立ち、写真をとっていました。

昼食は、事前に予算の範囲に収めつつ院生たちが食から富山の文化や歴史や産業を学ぶことができるように、日本海ツーリストや創作割烹潮乃美のみなさんと入念に企画をしました。富山湾でとれる鰯や昆布を使ったお料理と氷見うどんを題材にGRASSメンバーがお料理とそ

の歴史・文化的背景を説明しました。鰻しゃぶを食べる際には、全員で大きな声で「Shabu, Shabu」と言いながら鰻をだし汁にくぐらせました。

その後、九殿浜休憩所にて富山湾の定置網の説明を行い、九殿浜展望台から定置網を眺めました。さらに、富山県栽培漁業センターにて持続可能な漁業のあり方として栽培漁業を学びました。栽培漁業とは、卵から育てた稚魚を海に放流し、大きくなってから漁獲する持続可能な漁業の試みです。最後に、氷見番屋街で足湯に浸かり、旅の疲れを癒しつつ、地元のおばあさんたちとの足湯談義を楽しみました。



写真) 道の駅雨晴にて



写真) 九殿浜休憩所にて定置網の講義



写真) 富山県栽培漁業センターにて記念撮影

V GRASS Diversity Day 開催

GRASS は、2024 年 12 月 23 日に GRASS office にて Diversity Day を開催しました。GRASS は、メンバーそのものがジェンダーにおいても民族においても多様性が高く、同様に本学大学院持続可能社会創成学環も様々な国からの留学生がいるために多様性を大切にしています。留学生たちに日本の冬のお料理である「おでん」を題材に、おでん種を院生のみなさんと一緒に仕込みなが

ら、おでんの歴史を論じました。おでんには、すじ肉などを除けば、魚からできた食材であるためムスリムやヒンズーのみなさんも安心して食べることができ、大根やこんにゃくなどビーガン食にも対応できます。ややディープすぎる日本食かなと心配しましたが、留学生たちはみな喜んで美味しそうに食べていました。おでんが繋ぐ留学生の環ができました。



写真) おでんを学び楽しむ留学生たち

VI Eurasia Research Seminar 開催

2025 年 1 月 22 日、GRASS において Eurasia Research Seminar を開催しました。このセミナーには、韓国においてロシア政治研究をリードする Seongjin Kim 教授 (Duksung Women's University) と国際的にユーラシアの移民問題で活躍する Sergey Ryazantsev 教授 (Mahidol University, Thailand) をお招きして、ロシアのウクライナ侵攻後の国際秩序の変化がどのように生じているのか、また、ウクライナ戦争に起因して生じた大規模なロシア人のロシア出国がユーラシアにどのような影響を与えたのか、特にアジアへのロシア人出国が現地においてどのように受け入れられているのかなど、ウクライナ戦争に付随した諸課題を検討しました。Kim 教授は、Russia-Ukraine War and its Implications for Korea-Russia Relations と題する報告を行い、Ryazantsev 教授は Russian Emigration to Eurasian Countries と題する報告を行いました。討論には、立教大学の大橋健一教授、本学経済学部小柳津英知教授、そして、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センターの岩下明裕教授が参加しました。GRASS スタッフからも多くの質問がなされ、本学大学院持続可能社会創成学環の院生、人文学部や経済学部の学部生のみなさんから、たいへん学びの多いセミナーだったとのフィードバックをいただきました。



写真) セミナーの様子



〒930-8555 富山県富山市五福3190
研究推進機構 サステナビリティ国際研究センター



<http://www3.u-toyama.ac.jp/grass>